

# あいち 国際プラザ



2024.12 No.163

**AIA** AICHI INTERNATIONAL ASSOCIATION

公益財団法人 愛知県国際交流協会  
ニュースレター

## ワールド・コラボ・フェスタ 2024



紙の一枚

ワールド・コラボ・フェスタ 2024

■写真の内容については4ページの「ワールド・コラボ・フェスタ 2024 を開催しました」で紹介しています。

### Contents

#### 特集

愛知万博 20 周年記念事業 ..... P.2 ~ 3

- AIA だより 協会の主催・共催事業などを掲載しています ..... P.4 ~ 6  
ワールド・コラボ・フェスタ 2024 を開催しました  
海外研修参加報告 (ベトナム・タイ)  
留学生インターンシップ報告  
あいちでキラリ★~愛知で活躍する外国人の方を紹介します~
- 2024 年度「外国人県民による多文化共生日本語スピーチコンテスト」が開催されました! ..... P.6
- Focus on! ..... P.7  
国際交流ステーション たはら国際交流協会  
世界の街かどレポート ドバイ日本人学校
- ようこそ!愛知の産業グローバル化を支える留学生 ..... P.8
- 編集後記・協会案内図 ..... P.8

当協会では賛助会員を募集しています。詳細は [愛知県国際交流協会 賛助会員](https://www2.aia.pref.aichi.jp/somu/j/send/boshu.html) で **検索**

<https://www2.aia.pref.aichi.jp/somu/j/send/boshu.html>

愛知万博20周年記念事業

# 愛・地球博 20 祭

## ～つなぐ 未来 (あした) へ～

2025 年は、2005 年日本国際博覧会「愛・地球博」が開催されて 20 周年となります。これを記念し、会場地であった愛・地球博記念公園において、愛知万博 20 周年記念事業「愛・地球博 20 祭」を開催します。

愛・地球博を知らない世代が増える中、愛・地球博を振り返り、その意義や成果を再認識することで、次の世代にその成果や理念をつなげていくとともに、多くの方々に愛知の魅力をたくさん知っていただき、より愛知を好きになっていただき、そんな半年間にしていきたいと考えています。ワクワクしながら楽しく、でも、真面目に未来を考える、素敵なイベントを盛りだくさん企画していますので、是非楽しみにしてください。

- 1 会期** 2025 年 3 月 25 日 (火) から 2025 年 9 月 25 日 (木) まで
- 2 会場** 愛・地球博記念公園 (愛知県長久手市茨ヶ廻間乙 1533-1)
- 3 主催** 愛知万博 20 周年記念事業実行委員会 (会長: 愛知県知事 大村秀章)



ロゴマーク▶

## イベントスケジュール

土日祝日を中心に、月ごとにテーマを決めたイベントを実施するほか、企業や大学、団体等様々な主体と協力して、見て、触れて、感じて楽しむことができるイベントが満載です。詳細は、公式ウェブサイトより順次発表していきますので、是非チェックしてみてください！

**3月・4月 フラワーピクニック** 鉢花・切花・観葉植物の販売や花を使ったワークショップ、エディブルフラワー (食用花) を使った飲食物の販売など、日本最大級の花のマルシェを開催します。

**4月・5月 遊びと学びの体験フィールド** ドローン・飛行モビリティ、働く車、ロボットの展示・体験など、最新技術に触れるイベントを開催します。

**5月 集まれ! あいちの魅力博。** 県内市町村がブースを出展し、特産品やグルメ、歴史・文化、自然、産業など、地域の様々な魅力が楽しめるイベントを開催します。

**6月 全員集合! 地球まもり隊** 環境問題に関する企業等の取組の紹介や親子で学ぶ環境講座・ワークショップを実施するほか、自然観察イベント、ジョギングとゴミ拾いを組み合わせたプロギングなどを開催します。

**7月 地球大交流フェスタ** 世界が抱える課題について理解・体験できるイベントや、企業・団体等と連携し、世界の文化や遊びを体験できるゾーンを展開するなど、国際理解・国際交流を促すイベントを開催します。

**8月 地球を愛する学園祭** 愛知万博のメインテーマ「自然の叡智」がどのように継承され、また、未来へ持続可能な社会を残すために、これから何ができるのかということについて、学生の自由な発想により企画・運営する様々なイベントを開催します。

**ナイトファンタジー** 子どもから大人までが楽しめるナイトイベントやドローンを使った光のパフォーマンスを実施します。

**エンジョイサマー** 大量の泡や水風船を使った玉入れ、水鉄砲合戦など、水を使ったイベントや、暑い夏を乗り切るためのアイデアの実験・ワークショップなどを開催します。

**9月 サステナブル芸術祭** 環境・経済・社会の「サステナビリティ」をテーマとした映像・音楽・アート等の複合的な大規模イベントを開催します。また、国際芸術祭「あいち 2025」と連携したイベントを実施します。

## <愛・地球博の理念と成果：地球大交流>

愛・地球博では、「自然の叡智」をテーマに、各国の伝統や文化に即して様々に解釈し、それを各国のイベントやパフォーマンスに展開することで、それぞれの文化の多様性を相互に理解し合うとともに、地球的課題解決には様々な考え方や方法があることを理解し、許容する重要性について学びました。また、一市町村一國フレンドシップ事業を通じて、全ての参加国が愛知県内の市町村と手を取り合い、国際交流イベントを行いました。

愛・地球博 20 祭のイベントの一つである「地球大交流フェスタ」では、こうした理念と成果を受け継ぎ、国際理解・国際交流を促すイベントを展開します。

## ☆イベント案内☆ 巡回パネル展

### 概要

愛・地球博の振り返りや愛・地球博20祭のPRを目的として、県及び県内市町村の施設等を巡回するパネル展を実施しています！

モリゾー・キッコロと一緒に20年前にタイムスリップして、愛・地球博について一緒に学びましょう ✨



**実施時期** 2024年10月1日（火）～2025年9月25日（木）

**巡回計画** ※以下のWebページ「県市町村連携PR企画」内の「巡回パネル展」から巡回スケジュールをご確認ください。

<https://aichiexpo20th.org/aichiexpo20th/54collab.html>

※右の二次元コードから読み取することもできます。⇒



## ☆募集案内☆

### 愛・地球博20祭のシンボル展示「地球の樹」をみんなで作ろう！

#### 「地球の樹」概要

長久手市在住の切り絵作家 酒井敦美氏の協力の下、切り絵を自然光や映像技術を用いて、大きな木を模した立体物や天井・床面等に映し出し、光・風・水などの自然を感じられる空間を演出します。

**展示期間** 2025年3月25日（火）～2025年9月25日（木）

**展示場所** 愛・地球博記念公園（モリコロパーク）内  
地球市民交流センター屋内広場

「地球の樹」は、皆さんと一緒に作り上げて完成させる作品です。

「地球の樹」の一部となる葉っぱのデザインを皆さんに描いていただき、皆さんの想いを集めて、ひとつの大きな未来の樹を一緒に作り上げましょう！

皆さんからの作品をWebページから募集しておりますので、ぜひご参加ください！



**Webページ** <https://aichiexpo20th.org/chikyuunoki-web.html>  
※右の二次元コードから読み取することもできます。⇒

**募集締切** 2025年1月31日（金）まで



#### 問い合わせ先

愛知万博20周年記念事業実行委員会事務局（愛知県政策企画局企画課愛知万博20周年記念事業推進室）

電話：052-954-6073

E-mail：banpaku20th@pref.aichi.lg.jp

## 「ワールド・コラボ・フェスタ 2024」を開催しました



▲ファンクキッドの皆様

ワールド・コラボ・フェスタが10月26日(土)・27日(日)にオアシス21で開催されました! 21回目の今年も、さわやかな秋晴れの日で、61,000人もの方にご来場いただきました。

今年は昨年より多い団体様にご参加いただき、ブース出展は57団体、ステージ出演は28団体でした。2日間にわたり盛り上がり、無事に終えることができましたのも皆様のご協力のおかげです。

オープニングは、グローバルダンススタジオ「ファンクキッド」の子どもたちが、リトルワールドからご提供いただいた世界各国の衣装をまとい、華々しく幕開けを飾ってくれました。

また、今年は日曜日だけではなく、土曜日も夕方に「おいしい抽選会」と題した美味しい飲食物が当たる抽選会を実施しました。初の試みでしたが、とっても盛り上がりました。来年もお楽しみに!

### AIAのだしもの

わたしたちAIAは、毎年、特定の国に焦点を当て、その国の文化や我が国との交流関係などを紹介しています。今回は昨年日本と「外交関係樹立150周年」を迎えたペルー共和国を取り上げ、ステージ、ブース展示などを行いました。

#### ◆ステージ「フォルクローレの陽気なリズムによってペルーを楽しもう」

2008年にペルーで結成し、現在は愛知県を中心に活動している「Los Maravillosos Románticos del Folklore」の皆様が陽気なリズムの楽器演奏と歌と踊りを披露していただきました。「フォルクローレ」とは、ラテンアメリカ諸国の伝統/民族音楽のことです。南米の民族楽器の「アルパ」と呼ばれるハーブやベースギター、電子ドラムに合わせた歌と、その歌に合わせたリズムカルなダンスで、観客の中にも、自然と体が動き出す方もいらっしゃいました♪

#### ◆ブース「ペルーを知ろう」

ブースでは、ペルー共和国を紹介したパネル展示、ミニ講座「ペルーの食文化について」、ペルー出身のAIAスタッフから教えてもらったトランプゲーム「フィウ フィウ ラ ローラ」を行いました。また、豊川市の「FUJIKI CAKE」の藤木家の皆様へペルーのお菓子の物販も行っていただきました。

今回のミニ講座では、ペルーにルーツのある藤木トシオ氏をお招きして、ペルーでよく使用されるじゃがいも(約3,000種類のじゃがいもがあるそう)や、アヒと呼ばれるとうがらし、ペルーの地形から発展した食材をはじめ、ペルーの歴史からミクスチャー料理が生まれたことなど、ペルーの食文化についてお話ししていただきました。

ミニ講座に参加した方からは、ペルー料理を食べてみたくなったとお声をいただき、ペルーの食文化について知っていただく良い機会になったと思っております。お菓子の販売があったことで、ブースも華やかで、賑わいました。



▲藤木トシオさん(右奥)によるミニ講座



▲FUJIKI CAKEのお菓子セット



▲おいしい抽選会の様子



▲Los Maravillosos Románticos del Folkloreの皆様

トランプゲーム「フィウ フィウ ラ ローラ」は、出されたカードによって行動であらわす、子どもから大人まで楽しめる簡単なゲームです♪多くの方が参加し、勝負を楽しんでくださいました。「帰ったら子どもと遊んでみます」と言ってくださった方もいました。

愛知県には、日本で1番多い、約8,000人ものペルーの方が住んでいます。私どものステージとブースに寄ってくださった方々が、ペルーを知り、より身近に感じてくださったなら嬉しいです。

## 海外研修参加報告 (ベトナム・タイ)

総務企画課 稲吉 咲良



8月14日から8月24日まで、(公財) 全国市町村研修財団が主催する研修「自治体の海外戦略～活力あるアジアとの地域間交流促進～(ベトナム・タイ)」に参加しました。ベトナム・タイは移民が多いというより観光客で賑わっている印象が強く、近年経済成長が目立つ国です。

今回の研修では、まず国内で両国の歴史・経済などの基礎知識について学んだ後、現地の機関等を訪問しお話を伺いました。タイでは訪問に加え、グループでの現地調査も行いました。色々訪問した中でも印象的だったのは、「リエンピエットハノイ校」と「シーナカリンウィロート大学」です。

ベトナムにあるリエンピエットハノイ校では、日本で就労することを旨とする学生の受入れ及び教育を行っています。近年、多くのベトナムの方が来日し様々なフィールドで働き手となっていますが、来日前の教育については今回初めて知りました。この学校では、顔の見える関係性を大事にされています。それを象徴する取組みとして、面接時から学生の家族に就職先の詳細を伝えたり、会社側がベトナムを訪問したり、相互のやりとりがあるとのこと。また、日本で働く上で言語の不安があると思いますが、会社側が、学生へ教えてほしい日本語について伝えているそうです。学生もその家族も安心できる手厚いサポートがあることにとても驚きました。既に就職先が決まっている学生もあり、熱心で意欲的な姿が印象的でした。



▲リエンピエットハノイ校で学生と交流する様子



▲シーナカリンウィロート大学



▲シーナカリンウィロート大学のカフェテリア

タイではシーナカリンウィロート大学を訪問し、日本語を学んでいる学生と交流しました。学生のほとんどが日本へ留学経験があり、学生による「タイの教育/大学生の生活」「食文化」等をテーマにした発表から、日本とタイの違いについて学びました。「タイでは大学まで制服がある」「おかずはシェアする」といったお話が印象的で、同じアジアでも違いがあり興味深かったです。また、日本からの留学生も数名おり、今後も友好関係が続いてほしいと思いました。

研修を通して、改めて日本と両国との結びつきを感じました。コロナ禍も明け、これからも訪日者数は増えていきます。研修で学んだことを活かし、お互いの文化や習慣を尊重しながら暮らせる環境づくりに貢献できればいいなと思いました。

## 留学生インターンシップ報告

シュレスタ・ミム・バハドル (ネパール)



ネパール出身で名古屋経済大学法学部2年生のシュレスタ・ミム・バハドルさんが、当協会での5日間のインターンシップを行いました。

国際交流協会での職場体験で、将来のキャリアにつながるグローバルな視野を持った法律専門家になりたいという高い志を持って臨んでくださったシュレスタさんも、初日はとても緊張した様子でしたが、日を追うごとに協会に慣れ、素敵な笑顔を見せてくれました。

図書コーナーでの本の貸出や、あいち多文化共生センターでの翻訳業務、イベント説明会の準備と当日の受付など、幅広い業務に携わっていただき、当協会が目標に掲げている「国際交流の支援」と「多文化共生社会の推進」に触れていただくことができました。中でも機関誌の編集会議は日本語での初めての会議出席だったとすることで、緊張したけれどとてもプロフェッショナルな雰囲気だったと話してくださいました。

また県国際課と多文化共生推進室を訪問し、県が取り組んでいる医療通訳や多言語による情報発信についてお話を伺い、ご自身が参加するこのインターンシップ事業は愛知県が主催しているとの説明を受け驚いていました。

最終日の成果報告会では、パワーポイントを使ってインターンシップ期間を振り返り、今後の抱負を発表してくださいました。多文化共生の重要性を感じ、当協会での経験をもとに自分自身の法律の知識を発展させ、いずれは母国ネパールの人々の役に立ちたいと語ってくれたことがとても印象に残っています。シュレスタさんの今後のご活躍をお祈りしております。



▲図書コーナーでの貸出業務



▲機関誌編集会議に参加

## ★あいちでキラリ★

## ～愛知で活躍する外国人の方を紹介します～

このコーナーでは愛知県で活躍している外国人の方にインタビューを行い、キラリ★輝いている理由をお聞きします！

菊地 クリステリアン マウロ 健二さん（アルゼンチン出身）

## ■ 菊地さんのことをおしえてください

17歳の時に父に連れられて日本に来ました。最初は静岡県焼津市に住み、工場で仕事を始めました。父はアルゼンチン日系2世、母はバラグアイ人です。なので自分は日系3世です。日本に来た当初は日本語が話せないし、慣れない工場での仕事で苦労しました。職場では日本語とポルトガル語が使われており、スペイン語話者の自分は理解できないことが多くて本当に大変でした。人生の転機は、焼津市が実施している日本語教室のボランティアさんに出会ったこと。定時制高校を紹介してくれ、入学から卒業までサポートをしてくれました。その人がいなくなったら日本に留まっていようとは思っていません。最初はお金を貯めてすぐにアルゼンチンに帰ろうと思っていましたから。その後日本語を学ぶ専門学校に入るために愛知県に来て、それから19年間愛知県に住んでいます。



## ■ どのような仕事をしていますか

外国人児童・生徒のための塾を経営しています。授業はオンラインで、小学校1年生から中学校3年生までの児童・生徒がいます。自分は数学の担当で、他にも4人先生がいます。日本語が上手に話せても学校の授業についていくのが難しい子どもや、そもそも日本語が話せない子どもにポルトガル語等で勉強を教えています。ほかにも、映像制作会社をしており、企業のPR動画や結婚式の動画を制作したりしています。

## ■ キラリ★輝いている理由をおしえてください

家族の存在が大きいです。今年子供が生まれ、今9か月です。家族との時間を大事にしたいので自宅で仕事をしたり、自由が利く仕事をしています。家族を幸せにするために今、仕事を頑張っています！

## ■ 今後の目標をおしえてください

若いうちにたくさん働き、早く自由な時間を手に入れて、家族と過ごしたいです。塾ももっと広げていきたいし、映像の仕事も頑張りたいです。自分で映画を作りたいですね。キリスト教なのでキリスト教に関する映画を作り、深いメッセージを伝えられるような映画を作りたいです。



日本国籍も取得している菊地さん。来日当初は日本語が全くわからなかったとのことですが、今はネイティブ並みに日本語がペラペラです。好きなアルゼンチン料理はアサード。肉の塊をじっくり焼いたBBQだそうです。食べてみたいですね。筆者もアルゼンチンに行ってみたくくなりました。ラボカ（La Boca）という欧風文化が融合した街がおすすめです。

## 2024年度「外国人県民による多文化共生日本語スピーチコンテスト」が開催されました！▶

愛知県では、外国人県民が自分の思いや考えを日本語で伝えようとする意識の高揚を図るとともに、多文化共生に対する県民の理解を促進するため、2015年度から、「多文化共生日本語スピーチコンテスト」を開催しており、8月17日（土）にコンテストの最終審査を実施しました。

応募資格は、愛知県に在学、在勤又は在住する小学生（相当年齢を含む）以上の母語が日本語以外の方です。今年度は、小学生の部28名、中学生・高校生の部31名、一般の部39名、計98名の応募があり、第一次審査の結果、小学生の部6名、中学生・高校生の部6名、一般の部8名の計20名が本選に出場し、将来の夢や日常生活で感じた文化の違い等について日本語でスピーチしました。

審査の結果、小学生の部では、知立市立知立東小学校5年 アリ ハシーブさんが、中学生・高校生の部では、名古屋市立城山中学校2年 プティ レノバヤン ジョウズ アバディさんが、一般の部では、大府市国際交流協会日本語教室のユダ エラシャさんが最優秀賞を受賞し、大村秀章愛知県知事より表彰を受けました。

出場者からは、「普段、あまり関わることのない国の方の考え方などを知れていい機会になりました。」等の声が聞かれました。このスピーチコンテストでの経験を大切にして、今後出場者のみなさんが、それぞれの学校や職場において、大いに活躍されることを心から願っています。



Focus on!

## 国際交流ステーション

市町村や市町国際交流協会、NGO/NPOなどの活動紹介や最新ニュースをお届けするコーナーです。

## 特定非営利活動法人 たはら国際交流協会

田原市の外国人住民も約2千人となりました。技能実習生が多いという特徴があり、在住期間は短いです。そのため、地域住民と出会えば挨拶を交わす程度で、地域との関係が希薄な外国人が多く、防災対策など地域と連携して対応することを難しくしています。そこで地域住民と外国人にとって安心できて住みやすく、実習先として選ばれる田原市になれるよう「グローバルカフェ」を開催することにしました。

グローバルカフェは、6人程度でテーブルに分かれ、喫茶店の雰囲気でお茶やコーヒーを飲み、お菓子を食べながらおしゃべりを楽しみます。3カ月に1度のペースで6校区を終えたところです。田原市には20地区の市民館がありますが、将来的には、外国人も高齢者も誰でも一緒に集える市民館活動のカフェになることを夢見ています。グローバルカフェ1回の参加者は外国人20人前後で日本人が15人前後です。初めて顔を合わせる人が多いので、アイスブレイクには、坊主めくりを取り入れています。「坊主だ」「姫だ」とワイワイしながら、外国人も大の大人も楽しんでいます。自己紹介では、「〇〇農園でミニトマト栽培をしています」と言う、「〇〇農園なら知っているぞ」と返事があり、お互いに打ち解けて話が進みます。話す内容は、その時期の話題、南海トラフやお祭りなど、テーマがあるようでない状態でおしゃべりは展開していきます。グループ替えも行い、多くの人と出会う機会を増やしています。



▲アイスブレイクの坊主めくり



▲喫茶店の雰囲気の中で話が弾む

市民館の自治会役員が多く参加した時には、その地区に住む外国人が前に並んで、自己紹介をすることもありました。このグローバルカフェをきっかけに地域住民との交流が始まり、自治会の役員も地域に住む外国人に関心を持って、自治会の運営にも外国人との連携が進めばと期待しています。

Focus on!

## 世界の街かどレポート

世界各地で活躍する方々に現地の活動や交流の様子をレポートしていただくコーナーです。

ドバイ（ドバイ日本人学校 竹内 朋）

「ドバイ」と聞くと、オイルマネーによって発展した豪華絢爛な街並みをイメージする人が多いのではないのでしょうか？実際に、世界一の高さを誇るビル「ブルジュ・ハリファ」や、世界最大規模のハブ空港である「ドバイ国際空港」などがあり、活気にあふれています。

しかしそのイメージとは反対に、オイルマネーに頼らず発展を遂げた歴史と、外国人労働者に支えられている経済があります。

アラブ首長国連邦は中東にある7つの首長国から成る国で、ドバイはその首長国のひとつです。首都アブダビに比べて石油埋蔵量が少なく、将来的に石油で経済が発展することはないと見越した当時の首長は、限られたオイルマネーで空港と港を整備しました。この先見の明が現在のドバイの発展の基礎となっています。その後さらに、貿易や外資企業の誘致、観光業に力を入れ、だんだんと「豪華絢爛なドバイ」というイメージが定着してきました。

ドバイの人口は35万人を超えますが、「エミラティ」と言われるUAE国民はその1割程度しかいません。9割が外国人であり、そのなかでも同じ中東地域やアフリカ、東南アジアからの貧しい出稼ぎ労働者がドバイの街を支えています。50℃近くにもなる猛暑日でも汗水たらして働き、エアコンのない大型バスで宿舎に帰ります。「ブルジュ・ハリファ」などの豪華絢爛な建物はドバイの富の象徴でもあり、出稼ぎ労働者の努力の結晶でもあるのです。

多くの外国人が暮らすドバイは、まさに「多様性の街」です。互いに言語や文化が違って当たり前、それぞれの価値観を大切にしようという雰囲気には溢れています。誰に対しても親切で、生活するにも観光するにも居心地のよい街です。涼しくなるこれからの時期に、ドバイに足を運んでみてください。



▲「ブルジュ・ハリファ」とアラビア語の標識



▲建国の努力をお祝いする「フラッグデー」の様子

ようこそ!

## 愛知の 産業グローバル化を支える留学生

愛知県では、2013年度以降、アジア諸国からの大学院レベルの留学生を受け入れ、さらに県内企業への就職を促すことにより、全国一を誇るものづくり産業を支える人材の確保に努めています。このコーナーでは、愛知県の奨学金制度を利用し、県内の大学で学んでいる留学生の皆さんを紹介しています。

名古屋経済大学 大学院 ベトナム出身 レ ティ トウイ ティエンさん

### ◇日本に留学をしたいと思ったきっかけは

高校生のとき、歴史の授業で先生が日本について、アジアで経済や産業がトップの国だと教えてくれました。それから興味を持ち、大学では法学部に入り、法律の勉強をしながら日本語を学び、日本の法律も学びました。

5年前に日本に2週間短期留学をしたとき、愛知県に来て驚きました。愛知県は産業がとても発展しているのに自然も豊かで、共生しているなど。それからまた愛知県に来たいと思い、奨学金制度を調べて、来ることができました。今まで理系の学生向けの奨学金でしたが、対象が広がり、文系学生でも申請することができたのでうれしかったです。



### ◇日本に来てどれぐらいですか？日本はどうですか？

今年の3月に日本に来ました。4月から大学院生として学んでいます。愛知県の人たちはとても優しいと思います。日本に来たばかりのとき、どの電車に乗ればよいか迷っていたら、おばあさんがとても親切に教えてくれて、感動しました。

### ◇就職活動について

法学部の大学院で研究をしており、専門は労働法です。日本の企業に就職し、学んだ労働法を活かし、人事課などで働けるといいな、と思っています。愛知県は製造業が盛んですから、そういった企業で働きたいです。

### ◇将来の夢は？

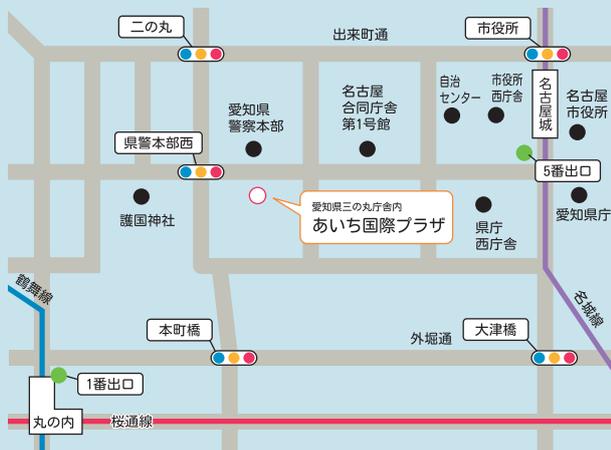
身近な目標は、日本語能力検定の1級に受かることです。また、日本の就職活動は面接がたくさんあり、難しいと聞いていますが、まずはそれを突破し、数年間日本で働き、その後ベトナムに帰って、日本とベトナムを繋ぐ架け橋になりたいと思っています。ベトナムでも法律に関する仕事をしたいです。



ベトナムの挨拶について。ベトナムでは「こんにちは、元気ですか？」の代わりに「もうごはんを食べましたか？」と聞きます。日本人にとっては変に感じるかもしれませんが、ベトナム人は健康状態を聞くためによくこういった挨拶をします。ごはんだけではなく、「コーヒーを飲みましたか？」と聞くこともあります。日本で「いい天気ですね」と挨拶するのと似ています。私はこのベトナムの挨拶文化が好きです。

◀ベトナムハノイ市の写真

### ■ 協会案内図及び交通案内



地下鉄名城線「名古屋城」駅5番出口より徒歩5分  
地下鉄鶴舞線・桜通線「丸の内」駅1番出口より徒歩10分

### ■ 編集後記

大きな盛り上がりを見せた愛知万博からもうすぐ20年ですね！当時大人気だった、マンモスの化石を見るために並んだことをうっすら覚えています。懐かしいですね。20周年記念事業に参加して、万博に想いを馳せたいと思います。(甲村)

### ■ 開館時間案内

開館時間 月曜日から土曜日 10:00～18:00  
(金曜日は10:00～20:30)  
休館日 日曜日、祝日、年末年始(12/29～1/3)

### ■ 編集・発行

令和6年12月16日発行  
公益財団法人愛知県国際交流協会  
〒460-0001 名古屋市中区三の丸2-6-1 (愛知県三の丸庁舎内)  
TEL: 052-961-7903 / 052-961-8744  
FAX: 052-961-8045  
URL: <https://www2.aia.pref.aichi.jp/>

\*本誌を作成するにあたり、企業・個人の方に取材を通じてご協力いただいておりますが、登場する企業・個人の営業活動の促進を目的とするものではありません。